

1 酪農場における超音波画像診断装置を用いた有料定期繁殖検診実施効果

淡路基幹家畜診療所 三原診療所

○小山憲司 宮崎俊輔 長谷川弘哉 是枝明博

山本直史 住 伸栄 橋本宰昌

本会は各診療所に超音波画像診断装置（エコー）を配備し、有料定期繁殖検診（有料検診）を推進している。今回 1 酪農場においてエコーを用いた有料検診を実施し、その効果を検討した。

材料および方法

農場の概要：繋ぎ牛舎で成乳牛 30 頭を飼養し、1 頭あたりの平均乳量は 9,140kg であった。2012 年 6 月に検診を開始し、同年 12 月に有料化（3,500 円/頭/年）した。

検診の概要：検診は月 2 回実施し、対象牛は兵庫県版牛群管理支援システム（システム）を用いて選出した。フレッシュチェックは分娩後 30 日以降、妊娠鑑定は授精後 28 日以降、再鑑定は授精後 55 日以降とした。

調査項目：検診開始時点（2012 年 6 月 1 日）と検診開始後 1 年経過時点（2013 年 6 月 1 日）における経産牛の平均初回授精日数、初回授精受胎率、発情発見率、受胎率、妊娠率、平均授精回数、平均空胎日数をシステムから抽出し比較検討した。検診開始前 1 年間（2011 年 6 月 1 日～2012 年 5 月 31 日）および検診開始後 1 年間（2012 年 6 月 1 日～2013 年 5 月 31 日）に分娩した牛の初回授精日数の分布を調査した。検診開始後の再鑑定時における妊娠喪失の発生状況を調査した。1 年間の検診実施による経済効果を試算した。

結果

検診開始時点、検診開始後 1 年経過時点における平均初回授精日数は 88.2 日、75.3 日、初回授精受胎率は 32.0%、25.0%、発情発見率は 73.9%、73.6%、受胎率は 37.8%、41.5%、妊娠率は 27.9%、30.5%、平均授精回数は 2.6 回、2.4 回、平均空胎日数は 141.1 日、122.8 日であった。初回授精日数の分布は、検診開始前は 61～80 日が 47.1%で最も多く、検診開始後は分娩後 41～60 日が 40.7%で最も多かった。検診開始後に妊娠鑑定時に妊娠と診断した 34 例の内、再鑑定時に 3 例の妊娠喪失を認めた。本農場における有料検診実施による 1 頭あたりの経済効果は 6,565 円、牛群の経済効果は 196,950 円であった。

考察

本農場は検診前より繁殖管理に問題は無かったが、有料検診実施による繁殖成績改善および経済効果が認められた。分娩後にフレッシュチェックを実施し、早期に初回授精を行い、不受胎牛を早期摘発したことにより空胎日数が短縮したと考えられた。また、システムを用いることによる繁殖管理の省力化、再鑑定時の妊娠喪失の摘発による畜主の負担軽減等の利点もあり、有料検診は農場経営の安定化に貢献できるものであると考えられた。